

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続 >

雌阿寒岳では、火山活動が活発な状態で経過しています。

25 日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ火口付近の地熱域は拡大が認められた 7 月 27 日及び 8 月 5 日の観測時と同程度の広がりであったことを確認しました。

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする、身体には感じない程度の微小な火山性地震は引き続き多い状態が続いています。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

雌阿寒岳では、今後も火口周辺に影響を及ぼす、ごく小さな噴火が発生する可能性があります。

ポンマチネシリ火口から約 500m の範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図 1 ～ 3）

8 月 25 日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。ポンマチネシリ第 3・第 4 火口の地熱域は、拡大が認められた 7 月 27 日及び 8 月 5 日の観測時と同程度の広がりであったことを確認しました（赤外熱映像装置¹⁾による）。その他の火口については特に変化は認められませんでした。

遠望カメラによる観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口では 2010 年以降と比較すると、6 月頃から噴煙量がやや多くなっており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過しました。

・地震の発生状況等（図 4）

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする、身体には感じない程度の微小な火山性地震は引き続き多い状態が続いています。

火山性微動は発生しておらず、地殻変動に特段の変化は認められていません。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

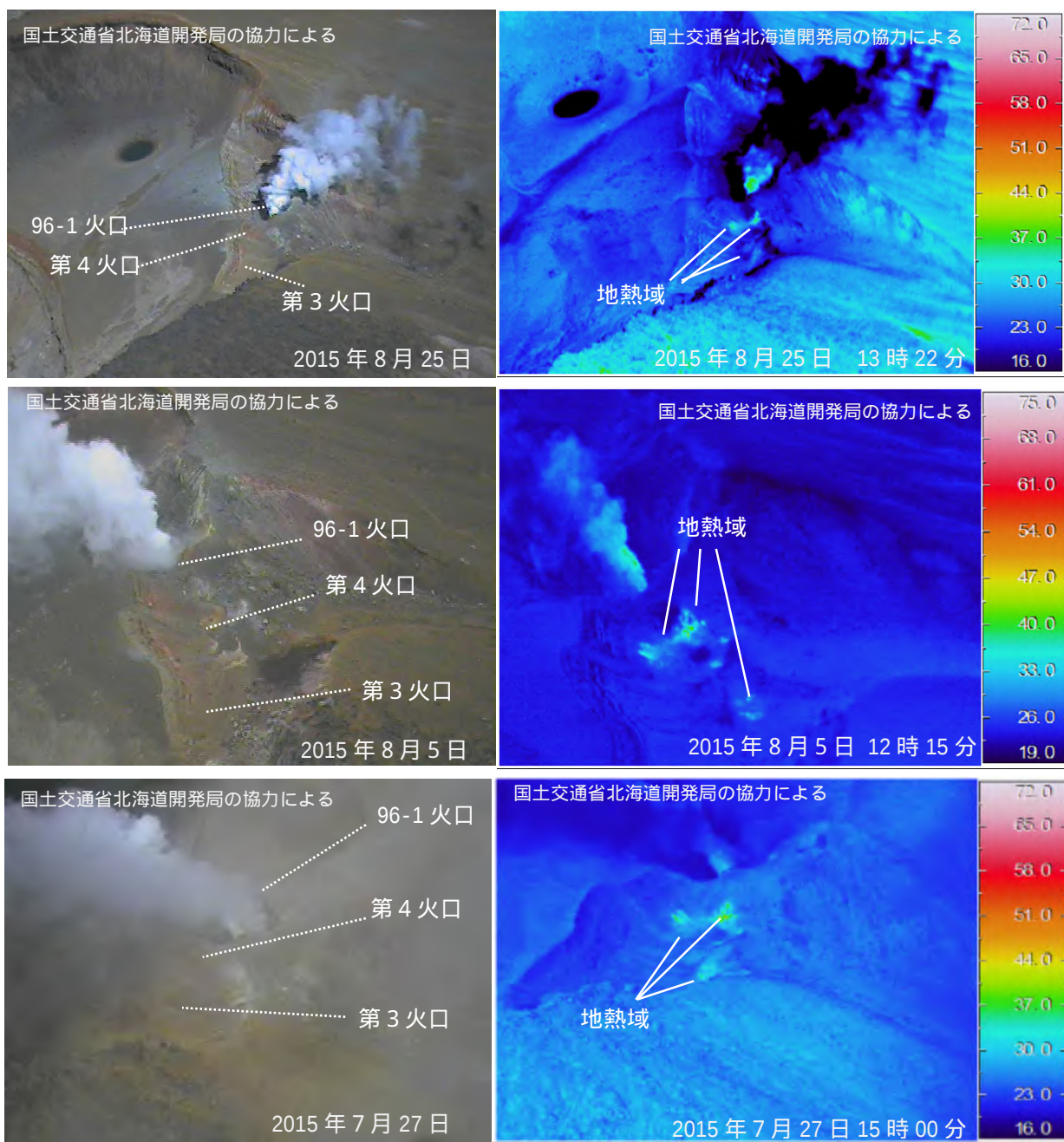


図 1 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口の地表面温度分布

上図：2015年 8 月 25 日（図 3 - から撮影） 中図：2015年 8 月 5 日（図 3 - から撮影）
下図：2015年 7 月 27 日（図 3 - から撮影）

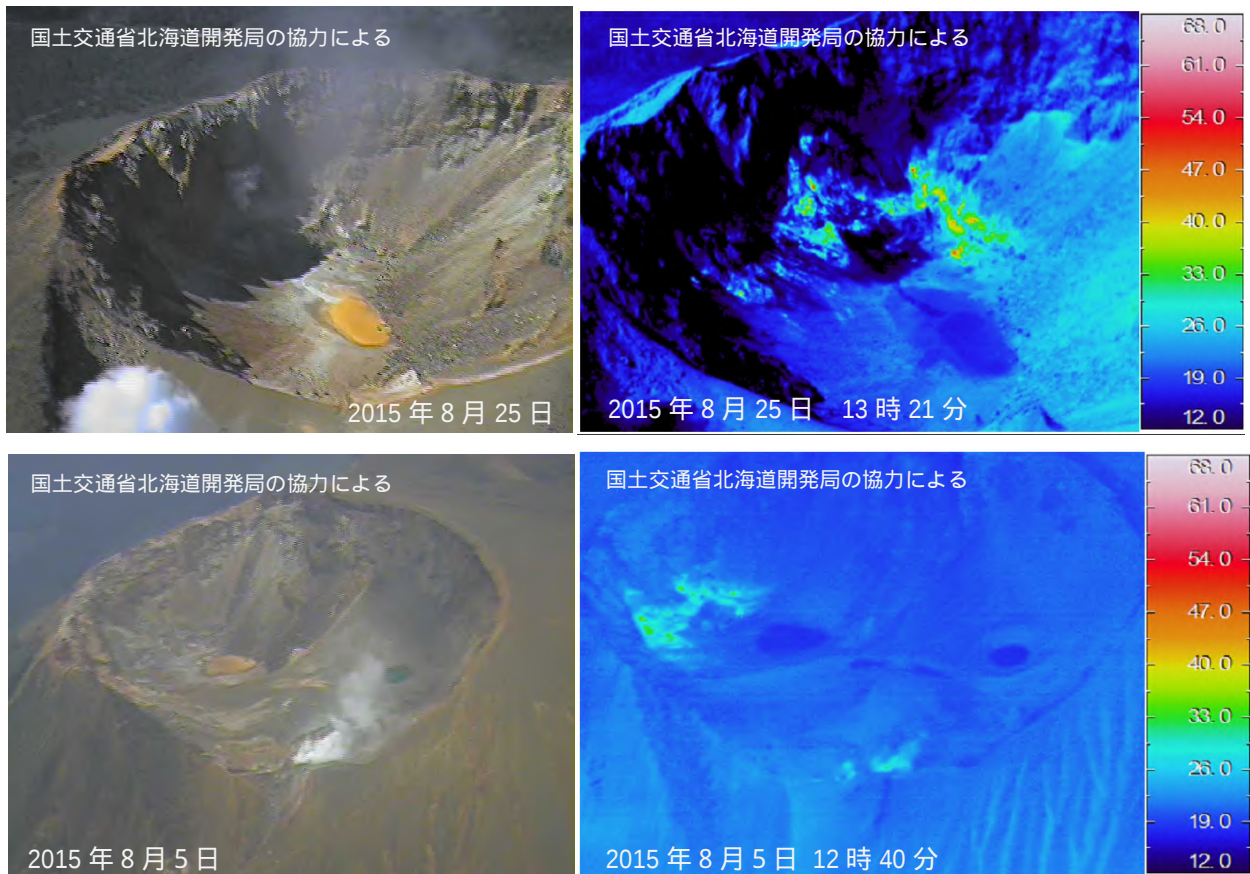


図 2 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口赤沼火口の地表面温度分布
 上図：2015年 8 月25日（図 3 - から撮影） 下図：2015年 8 月 5 日（図 3 - から撮影）

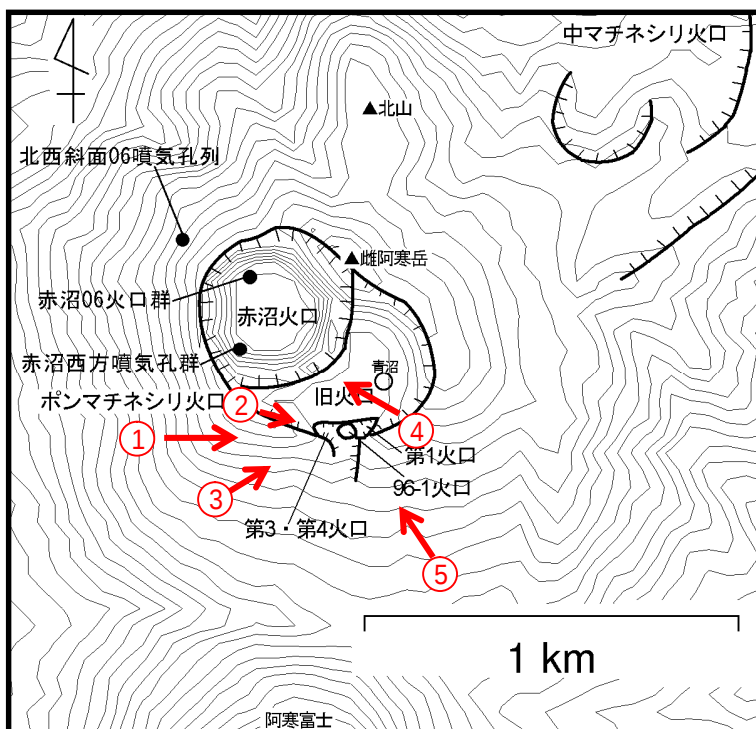


図 3 雌阿寒岳 写真及び赤外熱映像の撮影方向

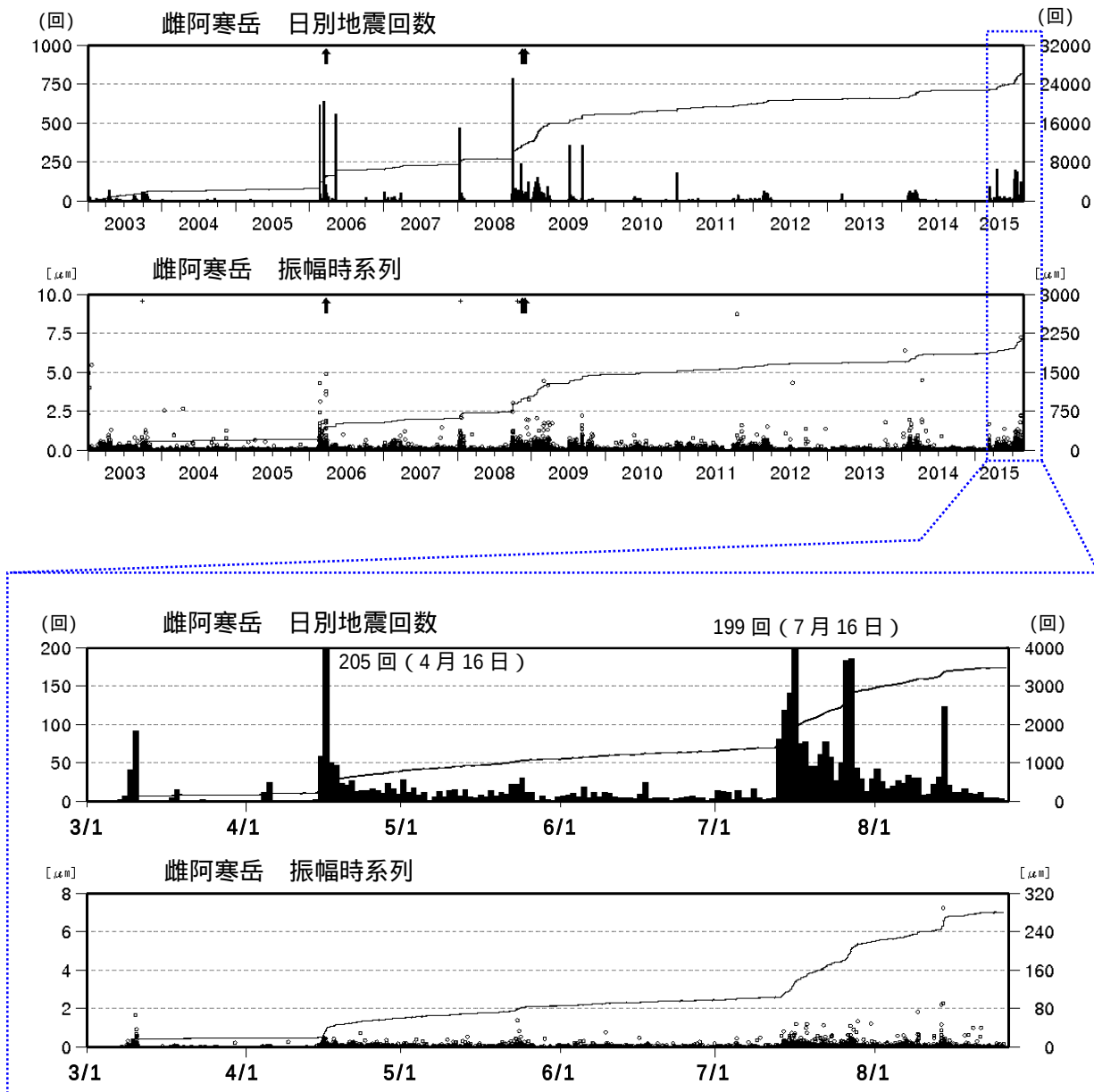


図 4 雌阿寒岳 日別地震回数及び振幅時系列 上図：2003年 1 月 1 日～2015年 8 月 26日15時

下図：2015年 3 月 1 日～2015年 8 月 26日15時

- ・ 計数基準：オンネトー南東で $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P時間 2 秒以内の火山性地震です
- ・ 黒線は積算回数及び振幅積算を示します
- ・ $\uparrow$ はごく小規模な噴火の発生を示します
- ・ $+$ は振幅が振り切れた地震を表示しています